

1970. Studies on antipodal Hepaticae, III. *Jubulopsis* Schuster, *Neohattoria* Kamim., and *Amphijubula* Schuster. Journ. Hattori Bot. Lab. 33: 266-304, figs. 1-6.

* * * *

ニュージーランドの Stewart 島のみに知られる単型属 *Jubulopsis* は近頃 R.M. Schuster 教授に依り記載されたばかりであるが、ヤスデゴケ科の祖型と考えられる面白い属である。本科の研究に手をそめた私は標本に基いて他属との類縁関係を掘り下げて見たいと思った。その結果本科の中で最も原始的な特徴を保有し、Schuster 氏の見解とは反対にヤスデゴケ亜科に入ると考えるに至った。ヤスデゴケ亜科に属する根拠は (1) 雄花枝の分枝型が *Bryopteris* 型でなく、*Frullania* 型であること、(2) 枝の第1葉と第2葉が *Jubula* 型でなく、*Frullania* 型であること、(3) *Frullania* 型の枝を出す葉の上片の茎への着生線が決して枝に流れないこと、そして (4) 葉の上片の着生線が縦長でないこと、の4点である (3と4も共に *Frullania* 型である)。

□ 北村二郎・村田 源：原色日本植物図鑑，木本篇 (I)，索引共 400 頁，図版 72，挿図 237，保育社発行，Nov. 1, 1971。¥2,800。本書は保育社の原色図鑑第 49 篇で、既刊草本篇上・中・下 3 篇につづく木本篇の第 1 巻である。木本の合弁花類から逆行して、その全部と、離弁花類のウコギ科からマメ科までをとり扱っている。このシリーズの第 19 篇は、岡本省吾氏との共著の原色日本樹木図鑑で、本書はその姉妹篇のようなものであるようにも考えられるが、後者が写真から出来ているので、やゝもの足りないようなところもあるが、今回のものは、その点と増補の点で一段の進歩をしているので、重覆しているとはいきれない。その上、本篇は肉筆であるので、写真に比しそれぞれの持味に特色がある。木本はいうまでもなく草本とちがい、個体の一部を別々に表現するのだから、それぞれに特長があり、いろいろな角度から見る描写が利用者役にたつ。なを本篇には異名をあげてあると共に、参考文献を巻末につけ加えてあるので研究者には重宝である。また、折込み附録である北村氏筆者の「幻の樹木図鑑」なる文章は、北村氏がかなり長期に亘りしらべていた事実を知っている筆者としては、まことに興味をもって一読した。これは、通りいっぺんの折込以上に努力したもので、本邦樹木誌の現在までの先輩各位の活動のあとを記録した、日本樹木誌史の概説ともいべきもので、むしろ本篇の前か末尾におくべきである。終りに続篇の発行をまつとともに、そのときは、折込でなく本文のどこかに加えるよう希望する。

(久内清孝)